

全体説明（谷口）

新メンバー紹介

外部評価：概ね良好

統合に向けて PLより生データの提供依頼

・入手した書類をそのまま出せばいいのか、それとも書類の内容を整理した上での提出が求められるのか？前者であれば、ほとんど既に地球研に出したはず。後者は手間がかかりすぎる。（金子）

・いろいろな資金でいろいろなデータを取っている。それを区分けするのは難しいのではないか？（嶋田）

・地球研の評価としては、論文の他に、どのようなデータを残していったのかも重視される（次の研究シーズを探すため）。そのための理解をいただきたい（谷口）

・FTPに掲載の生データ集 まず班長さんが確認 所でどのデータを送っており、どのデータをまだ送っていないかどうか確認 所で入っていないものについては3月までに送ってもらう

コアになる研究＝プロジェクト貢献がメインの研究 と 周辺の研究＝個人的に学術論文雑誌に出すもの の区分けをしてほしい。班長さんは個人業績へのエフォートは若干抑えて、まとめのほうに力点を置いてもらえると大変ありがたい。

水班（嶋田）：議事録途中からのみ

・モデルWG：重点場所である関東・バンコク・ジャカルタ・データ収集状況について

安元：3月にWGを再び開催予定。所でどの項目に着眼するか討議の予定

・モデルWGでできるところ：各都市のパターンを見る段階でストップ。それ以上は時間的に困難

・データがない場合の揚水量の復元方法について

・最後の見せ方の1つ：法規制・揚水量データといった数字データ・文字データをグーグルマップ上に載せる

・地表水 地下水のつながり 水資源開発全体について目を配る必要あり

・地表水と地下水のつながりの指標化について：地下水依存度の変化 最適採取量の明確化（これ以上取ると問題が顕在化するし、これより取らないともったいないというラインの算定）

水班/社会経済班/遠藤の連携にて

・水班の売り：都市域における induced water の評価（新しいトレーサーによる）釜石トリチウム観測

#### 物質班（小野寺）

- ・ 班の最終目標：地下 沿岸海洋環境と都市化の関係モデルを作成すること
- ・ 他の班との連携 負荷機構 金子班との連携、 流動との関係 水班との連携、 窒素負荷量分布変動 金子班・データベース WGGIS 班
- ・ 物質班の売り：都市の発達段階と「窒素・有機物・重金属の供給・蓄積・流出」の関係を可視化するということ
- ・ 陸と海のつながりを都市ごとに指標化してもらいたい（PL） 小野寺・中田を中心に
- ・ 論文公表計画について

#### 社会経済班（金子）

- ・ 最終成果構想について（長期都市発展と地下環境を記述する指標/地下水過剰くみ上げの社会的費用（洪水）/大都市河口域堆積物の重金属濃度・窒素濃度/地下水流動モデルと流域モデルとの統合）
- ・ 上の項目のうち、長期都市発展と地下環境を記述する指標がプロジェクト全体に対する貢献となる 7都市を 17項目で整理
- ・ 17項目 他班との連携が必要。他班の受け入れ担当は大丈夫か？ 方針としては社会経済班ができるだけ集め、足りない部分を他の班に尋ねるという形を取る。 どのデータが足りないか/どのデータを提供できるか、といったお願いは金子から各班長へお願いします。
- ・ 17項目を出して、それが都市化の指標にどう役立つのか はじめからはわからない。まずはこの項目の指標作りに専心したほうがいい。

#### 都市地理班（吉越）

- ・ 研究開始当初の目標とその達成度について
- ・ 各メンバーの目標/要望
- ・ 出版の予定について
- ・ 都市地理班と他の班の連携がよく見えない PLからの提案：GISの空間情報の指標化と  
いうのはどうか？

#### 熱班（山野）

- ・ 当初の目標は、地表面温度の変動、地下への蓄熱を明らかにする（周辺地域との関係、  
時間変化）
- ・ 問題点は、孔井が浅い、地下水流動の影響、観測の遅れなど。
- ・ 解析手法の開発、長期観測の進行状況
- ・ 地表面温度の復元結果（バンコクなど）
- ・ 地下に蓄積された熱量の計算 社会経済班の指標に使えるのでは。

- ・地中熱利用システム 位置づけが難しい
- ・各班との連携（地下水流動の影響（水班）、土地利用変化の影響（都市地理班）、気温と地表面温度の関係（都市地理班））、点情報を面情報に直す際にどうするか？
- ・出版・成果発表の準備について（物理探査への投稿、台湾シンポの本とジャーナル）
- ・最終目標としては、逆解析の手法を統一化させて、複数の都市で比較する
- ・地下水流動と熱輸送を統合したモデル計算を試みる。飽和（地下水位が高い、揚水量少ない）と不飽和（地下水位低い、揚水量多い）で熱の伝わり方が違うので、地下熱の観点からの最適地下水揚水量を評価できないか？

#### モデルWG（安元）

- ・7都市比較のイメージ紹介
- ・GISデータを基に土地利用に応じた地下水涵養量を推測
- ・各データの収集状況（雨・気温・河川流量・揚水量など）
- ・今後のタイムスケジュール PLの要望：もっと頻繁に班長会議をやりたい（3月、5月、8月）。まずは10月最後の週に台湾シンポ向け合宿を行うことは確定

#### GISWG（白木）

- ・全員が利用できる土地利用変化GIS（7都市3時代）の作成：最終目標
- ・データ公開（KMLデータ、生データ） これらを段階的に内部および外部に公開
- ・KMLデータのダウンロードサイト（作成中） 外部公開といっても、登録制にしてある程度縛りをつける
- ・2月末3月末までにグーグルアース地図を立ち上げる。これにこういうデータを付けられるというコメントを各人してほしい

#### 法制度（遠藤）

- ・地盤沈下の被害額 見つけたら金子さんに
- ・規制の穴埋めをスコアで現す。  
法制度年表の作成（時系列に法制度の変化を並べて、クリックするとポップアップする形にする。

#### ニュースレター（山本）

- ・ニュースレター執筆依頼

最終的にすべてをまとめて冊子として印刷する。

#### 来年度プロジェクト関連学会・会議

- ・台湾シンポ出席者（ ）は未定

物質班：小野寺・梅澤・細野（確定）+（斎藤）かも  
社会経済班：金子・田中・今井（確定）+（カレン）かも  
熱班：山野・宮越（確定）+（江原・モニラ・ファジャ）  
都市地理班：吉越・山下・一之瀬（確定）  
水班：  
重力班：福田・西島・仲江川（確定） +（長谷川）  
事務局：谷口・遠藤・安元・山本・濱元・中田・岡本

## 出版

- ・教科書（日本語） 大学院生向けを想定して書く。フィールド全体を見回した内容。各班のまとめをイメージして書く：締切 8 月 31 日
- ・班長が代表して書く方式だと、他のメンバーの貢献が見えなくなる。これをどうするか？  
何らかの形でメンバーの名前を出す方法を考える。出版社と要相談。
- ・Springer（英語） 班長+カウンターパート+Advisory が執筆。前記教科書と内容が全く一致していなければ、内容がかぶってもよい。
- ・アジアの都市と水環境（吉越先生が中心となり編集） 吉越先生を中心に人選および書くべき共通項目を決める。人文社会系と自然系をペアにして各章 2 人程度でかく。

自然系案）東京：林

大阪：中屋

マニラ：物質班

ソウル：斎藤

台北：細野

バンコク：小野寺・梅澤・山中

ジャカルタ：

成果論文 今年度の成果を至急事務局まで。まず谷口先生から成果論文の一覧表作りを各班長を依頼。その後、メンバー限定用ページに成果論文を載せるかどうか決める

計画

嶋田：BKK 採水調査 / 台湾 Kr 採水調査など